

政務活動費調査研究報告書

会派名 新生・市民クラブ

氏名 大塚 正 俊

日 程	平成 30 年 11 月 14 日（水）午後 1 時 00 分～4 時 40 分 ～15 日午前 9 時～11 時 30 分
場 所	栃木県宇都宮市文化会館
相 手 方	全国市議会議長会研究フォーラム
参加議員 氏 名	今井 義人、須賀 瑠美子、松井 康之、木ノ下 素信 吉村 尚久、大塚 正俊、千木良 孝之
目 的	「議会と住民の関係」をテーマに開催される研究フォーラムに参加し、先進事例の取り組みを聞く中で、今後議会が住民とどのように関わり、どうすれば住民の議会に対する関心を高めることができるのか探ることを目的とする。
内 容	<p>第 1 部 基調講演 「地域共生社会」をどうつくるか～2040 年を越える自治体のかたち ～ 中央大学法学部教授 宮本太郎氏</p> <p>○2040 年問題として、地方と東京圏がそれぞれ違うかたちで持続可能性が問われる。地方圏では高齢化はピークを過ぎるが現役世代がさらに減少する。東京圏では現役世代の流入もあり人口規模は維持できるであろうが出生率は低く、さらなる高齢化が進行する。</p> <p>人口減少社会がもたらすチャンスとして、①困窮・孤立を超えて皆が人財のまちへ、②移住しなくてもずっと出番のあるまちへ、③必要縁、新しい家族縁、地縁でコンパクトな拠点づくりが求められる。そのためには、社会的弱者を認定し保護する福祉から、皆を元気にする包括支援と活躍の場づくり、新しいつながりづくりが必要で、ピンチをチャンスに変えた自治体とピンチに飲み込まれた自治体に分かれることとなる。</p> <p>第 2 部 パネルディスカッション「議会と住民の関係について」 江藤山梨学院大学大学院研究科長江藤教授と 5 名の識者によるパネルディスカッション</p> <p>○江藤教授 今、自治体には人口減少問題や議員のなり手不足の問題が顕在化しており、その解決法は住民と歩み、住民福祉の向上で成果をあげられる議会である。</p> <p>○今井氏 繰り返される「合併」によって、大規模・広域化した「市」は、</p>

自治の基盤（一人ひとりの住民）を失い、行政組織に偏する（政治的性格を希薄化）こととなっている。

一方、「分権」の名を借りた業務移譲や国からの責任転換によって行政が肥大化（議会の関与が薄れる）している。

「議員のなり手」がいることの方が不思議で、政治が好き？政治の「何」が好き？報酬よりも使命感？なのだろうか。そこが問題ではないか。

第3部 課題検討「議会と住民の関係について」

江藤山梨学院大学大学院研究科長江藤教授と5名の議員による事例報告

○江藤教授

議会基本条例制定の最も大きな意義は、新たな議会像を宣言したことである。閉鎖的な議会から住民に開かれ住民参加を促進する住民と歩む議会、質問・質疑だけの場から議員間討論を重視する議会、それを踏まえながら追認機関ではなく首長等と政策競争をする議会という3つの原則である。

議会の議決責任は説明責任を伴う。この責任を全うするためには、質疑だけではなく議員間討議が不可欠である。それを効果的に作動させるには独善性を排除しなければならず、そのためには一方で調査研究が必要であり、他方では住民との懇談が必要である。つまり、議決責任の自覚は、新たな議会を創り出す。

○桑田議員（久慈市議会）

議会が市民意見を聴く（問題発見）の場を越え、議会と市民、また市民同士で意見を交わす（問題共有⇒課題昇華）の場として、市民と議会が協働する「かだつて会議」を開催している。その対話手法としてワールド・カフェ形式を採用し、議員がファシリテーターを務めている。出された意見を議会で共有・論議し、課題解決に努めている。

○伊藤議員（新潟市）

中学生を対象とした主権者教育（模擬市議会、地域課題の解決に向けたワークショップ、市議会の傍聴・見学、議員との交流・意見交換）を通して、政治参加への意識を高める取り組みを進めている。

○ビアンキ アンソニー議長（犬山市）

議会は受け身すぎで、行政とのバランスが悪く、十分機能しているとは言えない。市民にとって役に立つ議会となるためには、与えられている権限を最大限に行使しなければならない。その権限として、①議員間討議（議員同士が議論しないと、議会として物事を決められない。）、②議会の政策立案と提言力向上（討論は提案につながらないと、ただのトークショーになってしまう。）、③市民参加（議

	<p>員間討議において議会の提案は、より市民のニーズや希望を反映できるように、市民の意見を吸い上げる場を増やし、市民から頂いた意見をもとに議員間討議を行う。) である。</p> <p>市民参加の機会として、議場で市民が直接意見を述べる市民フリースピーチ、女性議会、アポなしで自由に面会できるオープンドアポリシー（議会の行政相談）、市民との意見交換会、議長が案内する親子議場見学会等を実施している。</p>
<p>成 果</p>	<p>中津市議会では、「議会と市民との集い」を平成 30 年度に 4 回開催している。しかし、参加者は少なく、議会に対して地元要望や課題が発出され、それに対する答弁も執行部に伝えます。常任委員会で検討しますとのやり取りが大半です。</p> <p>テーマを絞り込んで、ワークショップ方式やワールド・カフェ方式により参加者が議員と一緒に課題を考え・整理する場へと変革していかなければなりません。</p> <p>また、市民に対して、市議会や議員の責務や役割、どんなことに取り組んできたのか等を説明、報告する場の設定も必要と考える。例えば、小・中・高校生の主権者教育の場や高齢者学級、女性楽興等の場を活用するのも一つの方法である。</p> <p>今後は、住民の意見を聴き、その課題と一緒に議論し、解決していく、市民と協働する議会とするため、議員の政策立案能力とファシリテーター能力を高める必要がある。</p>